

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	美術考古館展示事業	コード	111114
-------	-----------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課（岡谷美術考古館）	作成者 戸谷田剛秀
--------	--------	-------------------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化・芸術の振興
		予算科目	美術考古館展示事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	博物館法3条1		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	魅力ある展覧会の開催により、質の高い文化に触れる機会を増やし、市民に芸術文化を提供する。併せて、収蔵作家の顕彰、調査をおこなう。			
目的	対象者	市民及び来館者		
	意 図	市民の芸術文化の振興 生涯学習の推進		

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
収蔵作品展の開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静物画展」 3月31日～5月7日</li> <li>・「水のある風景」 5月11日～7月9日</li> <li>・「生誕120周年 高橋貞一郎と子どもたち展」 11月17日～1月8日</li> <li>・「増沢荘一郎とその同志」 1月14日～3月4日</li> <li>・「絵を診る－素材と技法」 3月8日～4月22日</li> </ul>		
交流ひろば展示		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「岡谷市内中学校・諏訪・大学の文化祭ポスター原画展」 11月20日～12月17日</li> </ul>		
考古常設展示		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内遺跡から出土の縄文～平安時代までの土器石器類の展示</li> </ul>		
前年度の課題への対応	魅力があり、多くの来館者に繋がるような展示内容の工夫や関連イベントの充実に努めた。また、他美術館等の視察研修をおこない展示方法などを参考とし、自己研鑽に努めた。			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	常設展の開催日数			単位	日
実績値	299	294	300		
*指標の説明	岡谷美術考古館の開館日数				
② 成果指標（指標名）	1日あたりの入館者数			単位	人
目標値	45	42	35	36	
実績値	35	35	38		
達成度	77.8%	83.3%	108.6%		
*指標の説明	岡谷美術考古館の1日あたりの入館者数				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間における1日あたりの入館者数の平均値				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	149,423	116,648	147,940	977,000
経常経費	149,423	116,648	147,940	635,750
臨時的経費				341,250
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	2,549,423	2,516,648	2,547,940	3,377,000
前年度比		98.7%	101.2%	132.5%
財源	2,549,423	2,516,648	2,547,940	3,377,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	8,526	8,560	8,493	
前年度比		100.4%	99.2%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	108.6%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	
成果指標の目標値 達成度	108.6%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)	
	美術展示室での展示は、基本的に収蔵作品の展示のため集客につなげるための展示内容やテーマの設定に苦慮する。特に考古展示室は、説明が必要な場合もあるため、万人に受け入れられる解説づくりと職員の勉強も必要。	
改善方法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	収蔵作品や収蔵作家について、より見識を深め、新たな発見に努めながらより魅力のあるテーマ設定を行っていき、幅広く収蔵作家や作品の紹介を行う。 交流ひろばや交流ステーションも有効利用を行いながら来館者の満足度を提供し、相乗効果を図っていく。 ギャラリートークや関連のイベントなどを実施し、幅の広い交流の場を提供していく。	
	改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---